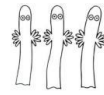


ちっちゃいものくらぶ



これはニョロニョロ

ヤマビル(さん)

6月も梅雨に入ると湿気がすごくなるよね～。その上気温も高かったりすると不快指数は急上昇！そんな季節に、もっと不快にしてくださる生き物がいるんだなあ、これが…。

それはこういう季節が大好きなヤマビルです。敢えて「さん」はつけたくない！差別だ～と言われるかもしれないけど、この生き物を好きだあって言う人は、あまり見かけないなあ。何しろビジュアルがね～。それに動き方がぞわっとするし、いわゆる「吸血鬼」だし。吸われていても痛くないんだけどね。やつらは血を吸う時に、ヒルジン(嘘じゃないからねっ)って物質を出す。これは血が固まるのを阻害するんだ。だから、奴がたらふくになってポトって落ちてもなかなか出血が止まらない。そして気がついた時にはTシャツとかが真っ赤になってたりする。でもね、大人だと年1回血を吸わせてもらえば大丈夫で、2年絶食しても耐えるらしい。だからちょっとくらい吸わせてあげる？

空腹時、ごはんを求めて動く



奴らは鹿さんに乗って旅もするらしい。房総半島から丹沢の方まで伝播したとも聞くけど、もしかしてそれって鹿さんがアクアラインを走った！？

今の季節、雨上がりの房総の山の中に行けば、おそらく奴らと出会えます。会ってみたい人は行ってみて。でもくれぐれも装備は万全に。皮膚を出すのはお顔だけ。首まわり、袖口はしっかりしめて、ズボンの裾は長い靴下の中に入れちゃう。とにかく奴らが侵入する所をなくすこと。あとは「ヒルニゲール」を靴から靴下にスプレーする。「ヒルニゲール」とは、要するに「塩水」です。これは平成17年度千葉県でのインターハイの時、木更津・君津の方の高校生がたくさん作ってくれました。

フレッシュなごはん

おなかいっぱい



なんで私が？！

私はあまり山登りは好きではない。中学高校で無理矢理登らされた経験しかないし。なのいろいろあって上記のインターハイのお世話で6日間、千葉の山に籠り、朝3時起きで亀山湖のそばの宿のおばさんをやった。役員は登らなくていいと言われていたのに、一応選手たちがどんな所を通るのか事前に見ておこうよと言われ、6月のムシムシの日曜にそのコースを登った。その時にヤマビルたちの襲撃をくらった。道はヤマビルがいない所を探す方が大変なくらいの大混雑！軍手をした手で払っても、今度は軍手にくっつき、ほとほと嫌になったよ。でも登山の先生たちはいい人たちばかりで、歩きながらのおしゃべりは最高に楽しかった。登山の勝敗は速く登った隊がいいというわけじゃない。山の途中で審査員が出てきて「君は今この地図のどこにいる？」とか急に聞かれたりする。気象の知識やテント張り、食事作り、持ち物のパッキングとかすごく詳細に審査されるんだ。

私は長野とか富山とか、すごくきれいな山がある県から来た選手はかわいそうだなと思った。だってさ、千葉の山って、低いから登り終えてもきつと清々しくないし、景色は見晴し悪いしで、面白くないんじゃないかなと。だから他の先生に「審査員は風太くんの着ぐるみ来て、『バー』って出てあげましょうか？」と言った。けど審査員の方が熱中症になるとすぐに却下された。

大会中は救急搬送を要する選手も出た。隊の一人でも欠けると棄権というルール。他のメンバーに申し訳なくて、悔しくて、自分が情けなくて号泣していた子を今でも思い出す。登山と関わって初めて知った、素晴らしい高校生や先生たちとの出会いは一つの宝物になった。気が進まなくてもとりあえずやってみるってのもありかなと思った私の経験。